

平成25年 北海道小学校長会地区活性化支援事業【研修レポート】

1 実施地区 函館地区

2 研修者氏名（学校名）：沢田 慶一（函館市立中部小学校）

3 研修実施日：平成25年9月10日（火）～平成25年9月11日（水）

4 研修目的：「確かな学力の育成を図る」

6 キーワード：校内研修体制、保護者・地域との連携、異校種との「学びの連続性」

1. 秋田市立旭北小学校の取組

「確かな学力の習得と、子どもの思考を生かした授業づくり」

(1) 「授業」の要 … より高次の価値に気付き、それを習得できる授業

(2) 学習のルールを確立することが基本 … 「話の聞き方」「話し合い方」

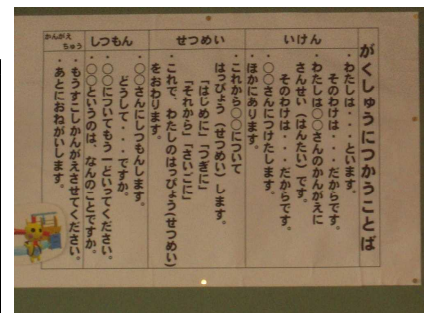
(3) ノート記録の重要性 … 子どもにとっての「学習の宝物」となるように

(4) 授業展開の要点 … 「板書の工夫」「発問の精選」「やる気を引き出す」

(5) 単元構想 … 「見通しがもてる単元展開」「本物の活用」

◎ 旭北小学校 伊藤校長の話

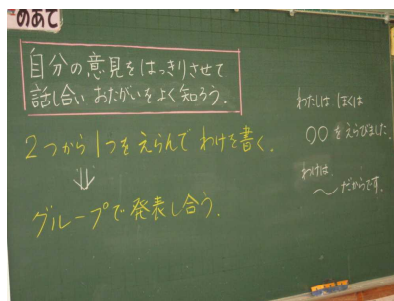
授業づくりに当たっては、上記の5点を主に取り組んでいるところです。学校経営上では、「学力向上」を力説してはいない。学級づくりを基盤に、普段の（毎日の）授業を大切に、『当たり前前（あたりまえ）の事を当たり前前（あたりまえ）に』続けていくことが大切と思っています。



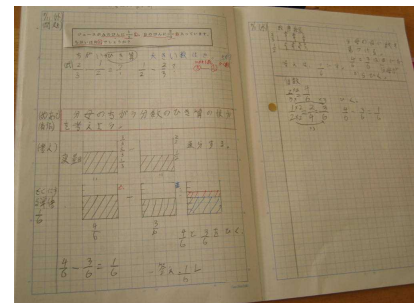
「学習で使う言葉の約束」



「1年体育の学習」



「3年道徳 板書」



「5年算数 ノート」

2. 大仙市立西仙北小学校の取組

昨年度、小学校4校が統合し西仙北小学校として、中学校が2校統合し西仙北中学校が新しく開校した地域です。小・中連携の取組は算数・数学を核とし、キーワードを「授業改善」「学び合い」に、児童生徒が「分かる できる 楽しい」学び合いの授業を目指しています。この課題解決のために組織で共同実践を図り、その推進組織を「にしせんプロジェクト」を名付け、小中職員が4つの班、「授業研究班」（学び合い・めあて）、「表現力育成班」（スピーチ・ノートづくり）、「家庭学習班」（習慣化・調査）、「キャリア教育班」（付けたい力・系統性）に所属し、年3回実践情報を交換しております。その授業実践として、小学校での「にしせんスタンダード授業」の取組が注目されております。思考力は表現に表れることから集団思考

の場を授業中に2回位置付け、「つなぎタイム1・2」を取り入れた授業展開です。

◎ 西仙北小学校 鈴木校長の話

「みんなわかって みんなができて みんなHAPPY」を合言葉に、学力の優劣や障がいのあるなしにかかわらずどの子も思考力・表現力がアップする算数授業のユニバーサルデザインを目指しています。今後は算数科だけではなく、今年度は国語科を、最終的には全教科に取り組んでいきたいと考えています。



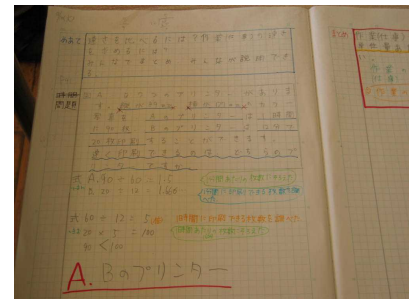
「にしせんスタンダード」



「つなぎタイム1」



「つなぎタイム2」

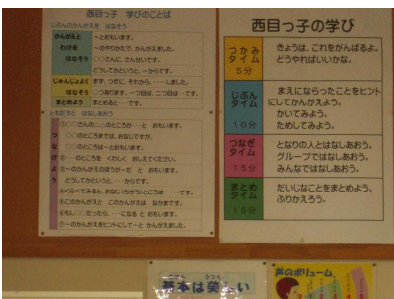


「6年算数 ノート」

3. 由利本荘市立西目小学校の取組

由利本荘市教育委員会では家庭向けに、「家庭でできる学びのススメ」を配付し、学校教育と家庭教育の重要性を呼びかけています。

西目小学校では、保護者（家庭）の協力を受けながら、単元構成を研究の基本として、「西目っ子の学び」を示しながら《つかみタイム（5分）→自分タイム（10分）→つなぎタイム（15分）→まとめタイム（15分）》わくわく感のある授業を目指して実践しております。また、学校教育目標の具現化を図るために学校経営を5期に分け、各期ごとのテーマを決め、検証改善サイクルに合わせた取組を実践しております。



「西目っ子の学び」



「発表風景…約束ごと」



「6年社会 板書」

◎ 今回、3校の視察研修を通して、一人一人の教師が今一度「教育の原点」に立ち帰り、共通理解に立った実践を積み重ねていくことの大切さを再確認できました。